

# 志和地区における住民意識評価からみた将来活性化計画に関する研究

高井広行

## Study on the Future Activation Plan through the Resident Consciousness Evaluation in Shiwa District

Hiroyuki TAKAI\*

### synopsis

Shiwa District is located in the western part of Higashi-Hiroshima city and it is the area with rich nature called the “Village of Fireflies(hotaru no sato)”. Considering of urban facilities, there are few shopping centers, restaurants, and hospitals and welfare facilities. The aging is also progressing, and it can be the area which the many problems in near future has produced. This research works on the result of many workshops with residents, the forward planning which reflected residents' intention focusing on the questionnaire and the measure toward the activation.

keywords: resident consciousness evaluation, aging problems, Shiwa District, futural activation plan

### 1 目的と方法

志和地区は東広島市の西部に位置し、ホテルの里として自然豊かな地区である。その地区内にある志和 IC は広島 IC から約 20 分、広島東 IC から約 15 分と広島市から近距離に位置しており、本格的なゴルフ場も 3 箇所あり、広島周辺都市部から訪れる人も多い。志和 IC の流入・流出台数は国道 2 号線バイパスへのアクセス道路として、ここ 10 年以上増加傾向にあり、志和 IC の役割・機能は益々重要なものになっている。しかし、この地区内には鉄道駅がなく、地域内の公共交通機関であるバスの本数も少ないことから広域公共交通機関が利用できない地区と言える。また、都市施設から見ても買い物・飲食施設、病院・福祉施設が少なく、居住人口も毎年減少し高齢化も平成 22 年 7 月には 32% (西条地区 13%) と進んでおり、将来多くの問題が生じる地区といえよう。

本研究は住民の方々との度重なるワークショップの成果と平成 21 年のアンケート調査を中心に住民の意向を反映した将来計画と活性化対策について検討したものである。<sup>1)</sup>

### 2 志和地区および調査の概要

#### (1)人口と高齢化率<sup>2)</sup>

志和地区の人口の推移を図 1 に、各地区の高齢化率を図 2 に示す。本地区の人口は年々減少傾向が続いているおり、平成 12 年には 8245 人であったのが、22 年 8 月には 7352 人まで減少している。また志和地区には現在、3 つの小学校があるが、生徒数の減少により廃校や統合が検討されつつある。志和地区の各集落においては高齢化率が 30%前後であり、とくに志和内地区が 40%と最も高く、その他のほとんどの地区も 30%を超えている。

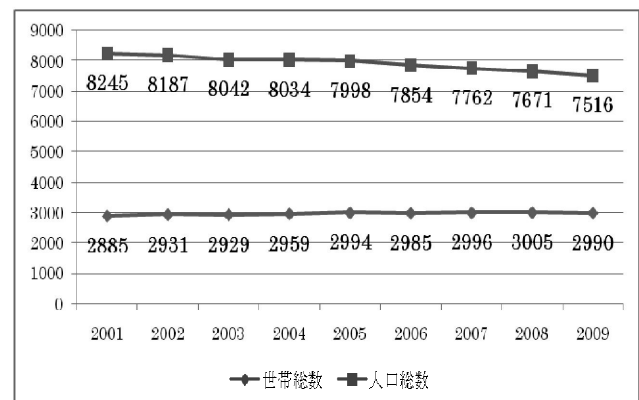


図 1 志和地区の人口の推移(住民基本台帳より)

\*近畿大学工学部建築学科

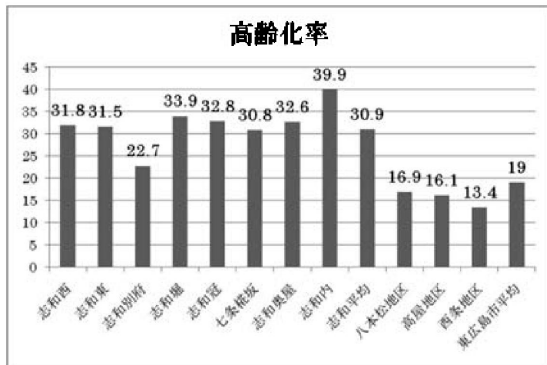


図2 志和地区の高齢化率(2009年住民基本台帳)

(2)志和インターチェンジの流入・流出台数の推移

東広島市内にある2インターチェンジでの流入・流出台数の推移を図3に示す。志和西地区に位置する志和ICは西条ICと比べて車の流入・流出台数が多いことが分かる。西条IC合計と志和IC合計を比べると1990年頃から西条ICは下降傾向に、志和ICは急激な増加傾向にあることが分かる。とくに、ここ5年間の増加は顕著である。2007年にはその差は300万台/年以上に広がっている。

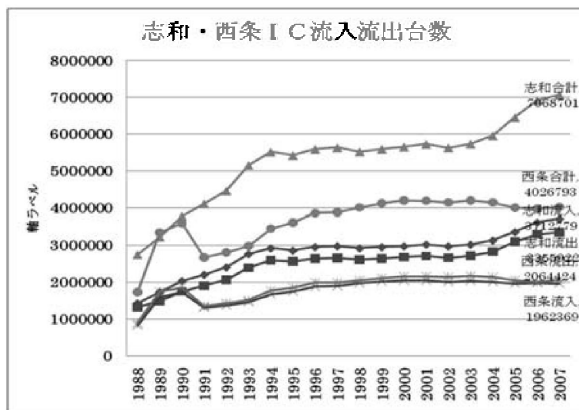


図3 志和ICと西条ICの流入・流出台数の推移

(3) アンケート調査の方法と概要<sup>3)</sup>

志和地区の活性化対策や居住環境について実施した住民アンケート調査は平成21年8月に実施した。志和地区の活性化・将来計画を検討していく上で、より住民の意見・意向を反映させることを目的としている。実施したアンケート内容は、「日頃の移動手段について」「交通機関の利用について」「高速道路の利用につ

いて」「志和地区について」「道の駅の計画について」「あなたについて」である。本調査は志和町の全世帯を対象に郵送で配布・回収した。対象者を中学生以上とし各世帯に3票ずつ同封した。郵送日は8月1日であり、回収最終日は9月10日であった。回収世帯数は515世帯(回収率17%)であり、回収票数は967票、1世帯当たりの個人票数は1.9票であった。地区別のアンケート配布・回収状況を表1に示す。

表1 地区別アンケート回収状況

地区	世帯数	世帯票数	世帯回収率	個人票数	1世帯当たりの個人票数
西	355	75	21%	141	1.9
東	505	65	13%	132	2.0
流通	63	2	3%	2	1.0
堀	538	83	15%	152	1.8
別府	419	89	21%	170	1.9
冠	322	51	16%	85	1.7
七条	395	53	13%	97	1.8
奥屋	249	55	22%	108	2.0
内	187	42	31%	80	1.9
合計	3033	515	17%	967	1.9

(4) アンケート回答者の個人属性

今、アンケート調査より得られた各地区の回答者の個人属性について図4～図7に示す。全回答者の性別は「男性」47%、「女性」53%とやや女性が多くなっている。地区別にみると最も女性の割合が高かった地区は志和七条地区58%である。年齢層別にみると志和七条地区の「60歳代」の回答者が40%と最も高く、ついで志和奥屋地区の35%、志和冠地区は「60歳代」の回答者31%、「50歳代」の回答者30%と両者とも高くなっている。居住年数は「30年～39年」が21%と最も高く、ついで「10年～19年」と「60年以上」が17%で他の居住年数をみても平均的に分布している。地区別にみると志和内地区では「60年以上」が29%と高い。自動車の保有状況は「保有している」平均割合は78%で、地区別にみると志和冠地区が最も高く85%、ついで志和内地区、志和奥屋地区、志和七条地区で82%と保有率が高くなっている。

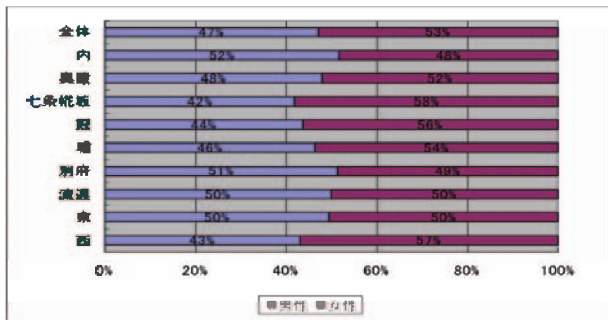


図4 地区別、性別回答者割合

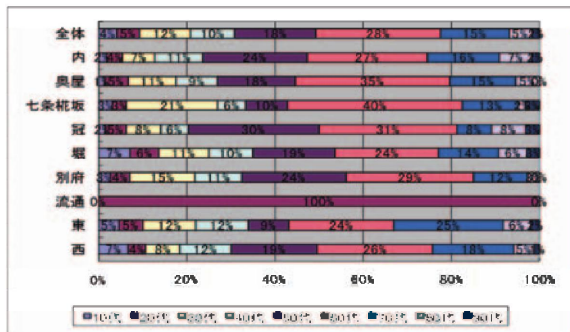


図5 地区別、年齢層別回答者割合

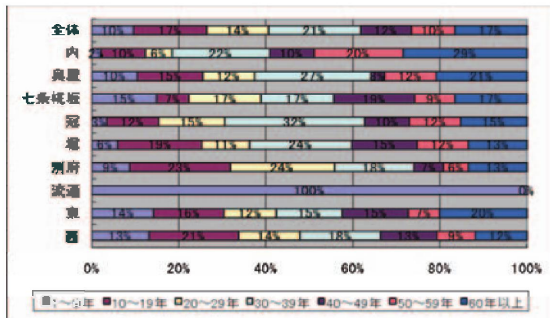


図6 地区別、居住年数別回答者割合

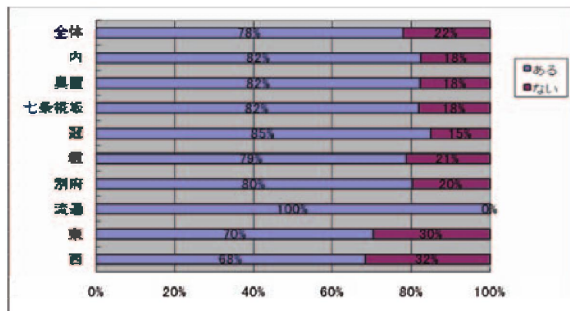


図7 地区別、自動車保有率別回答者割合

(5) 日常の目的別移動手段の実態

日常の移動手段について目的別に図8～図10に示す。通勤・通学の交通手段は「自動車」と答えた人が全体で87%と殆どの人が自動車を利用していることがわか

る。地区別にみると志和冠地区で最も高く97%、ついで志和堀地区と志和別府地区が96%、志和内地区が93%と9割以上の人が自動車と答えている。

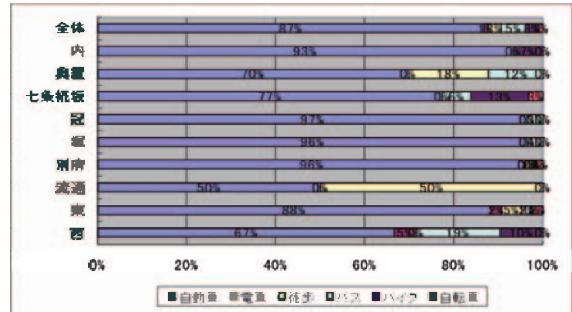


図8 地区別、通勤または通学別交通手段

近所への買い物(スーパー等)への交通手段は「自動車」と答えた人が全体で93%とほとんどの人が自動車を利用しており、バスの利用者はほとんどない。地区別にみると志和内地区100%、志和堀地区96%、志和別府地区で95%と高い。

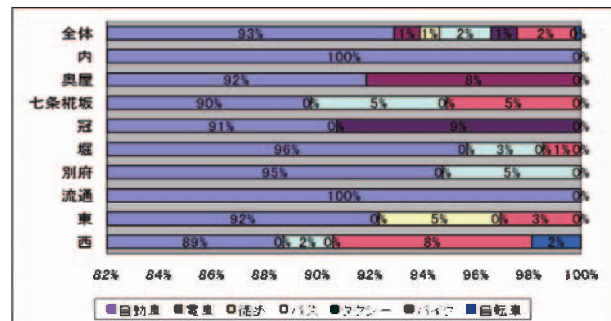


図9 地区別、近所への買い物移動手段

病院・福祉施設への移動手段としては自動車が90%とほとんどの人が車を利用している。地区別で平均を超えている地区は、志和内地区(100%)、志和別府地区(95%)と志和冠地区(92%)、志和奥屋地区(90%)である。

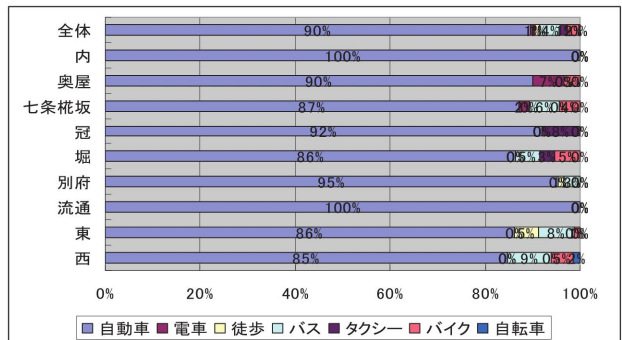


図10 地区別、病院への移動手段

### 3 志和地区の居住環境の実態

#### (1) 志和地区に居住している理由

志和地区に住むようになった理由を図 11 に示す。全体で見ると、「家があるから」が 82%と最も高くなっている。ついで「親の代から」51%、「土地があるから」44%、「田や畑があるから」38%と高い割合を占めた。地区別に見てもほぼ同様の傾向にある。

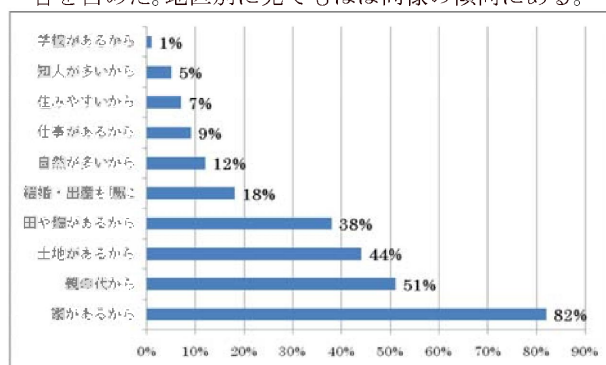


図 11 志和地区に居住している理由

#### (2) 志和地区の居住環境評価

志和地区の居住環境の評価について図 12 に示す。居住環境の良し悪しは、全体的に見ると「良い」の割合 33%が「悪い」の割合(22%)を 11%上回っており、志和地区の居住環境を良いと感じている人が多い。「普通」の割合が 45%と比較的高く、「良い」とする評価に向上させるための施策を講じることが本地区での重要な課題である。地区別では志和内地区が「良い」と答えた割合が 50%と最も高く過半数の人が本地区の環境を評価している。

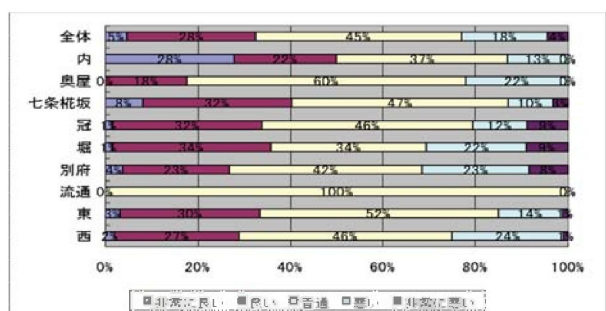


図 12 地区別、志和地区の居住環境評価

#### (3) 志和地区の改善すべき点

志和地区の改善すべき事項について図 13 に示す。全体で見ると「医療機関の充実」と「道路・交通の整備」が 52%と最も高い割合を占めた。本地区には

高齢者が多く居住している現状と、総合病院が無いこと、交通の利便性が悪いことからこれらの項目を希望する人が多いことが分かる。つづいて「飲食・買い物施設の充実」39%、「福祉サービスの充実」33%が高い割合を占める結果となり、改善対策として優先順位が高い項目といえよう。また、各地区の状況に応じて項目が異なっており、改善対策を考える場合地区の特徴を考慮すべきである。

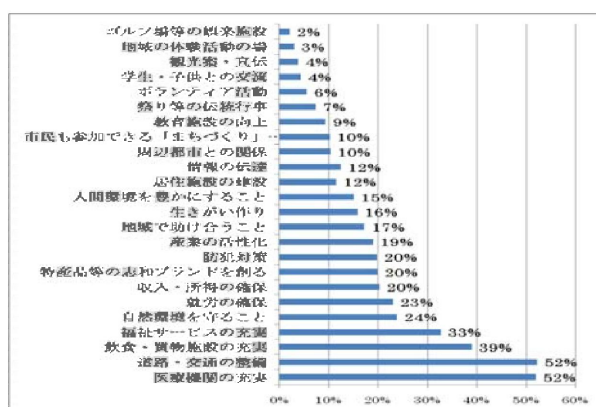


図 13 志和地区の居住環境改善方策

#### (4) 志和地区の活性化評価

そこで、本地区の活性化策に御ついて評価してもらった結果を図 14~図 17 に示す。過疎化対策としての「定住促進策」の評価は全体として「良い」と答えた割合は 57%と過半数を超えており、とくに、志和内地区 72%、志和別府地区 65%、志和奥屋地区 58%、志和冠地区 57%、志和東地区 56%が高い。

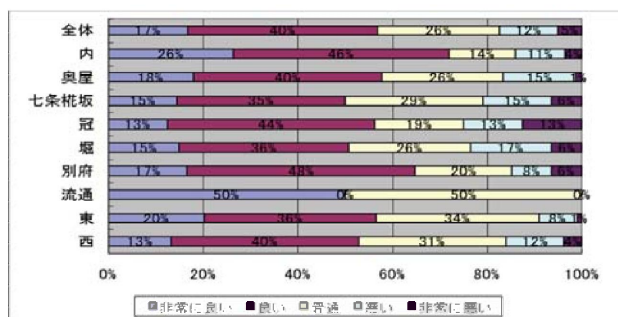


図 14 地区別、志和地区の定住促進策

「里親制度」の導入についての評価をみると全体では 46%が「良い」と評価している。とくに、志和内地区では 79%と他の地区に比べ圧倒的に高い。他は 40%前後が良いと答えている。

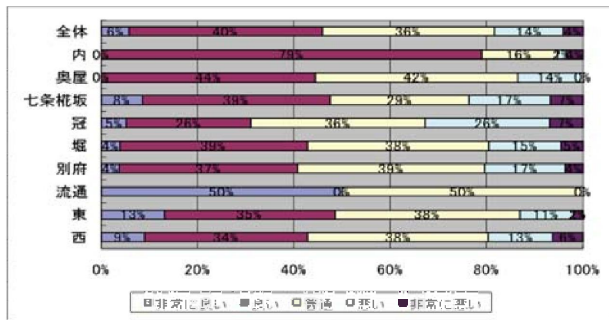


図 15 地区別、志和地区の里親制度策

「滞在型の活動の提供」の評価は全体として「良い」と答えた割合が41%と過半数を超えており、とくに、志和内地区69%、志和奥屋地区54%、志和堀地区55%が高い。

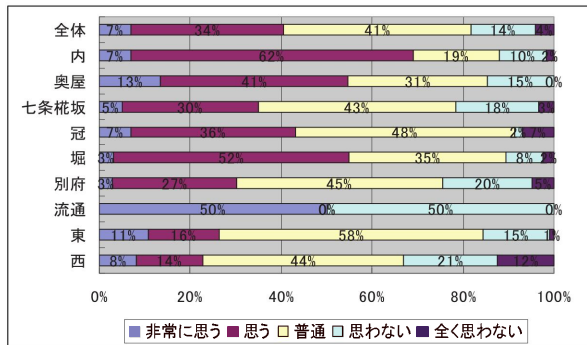


図 16 地区別、志和地区の滞在型活動策

志和地区での継続的居住希望については全体として「思う（非常に思う+思う）」と答えた割合は54%と過半数を超えている。とくに、志和内地区81%が高く、ついで、志和堀、志和東地区59%、志和奥屋地区54%が高くなっている。志和別府、西地区ではその割合は低い。

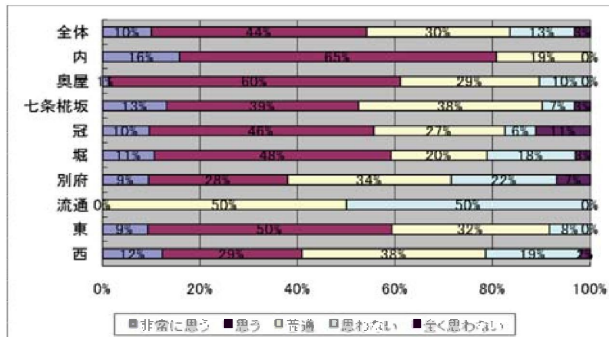


図 17 地区別、志和地区の居住希望

#### 4 地区拠点開発の基本的な考え方

ここでは志和活性化協議会で議論した地区拠点開発の考え方、将来計画と活性化対策および地区住民の評価についてまとめる。

##### (1) 志和活性化協議会の概要と開催状況

平成19年8月に東広島商工会議所が中心となり、志和地区に住む人々が集まり、地区の今後について考えていく為に「志和地区活性化協議会」が設立された。そこで、志和地区の課題、将来のまちづくり等についてワークショップを中心に議論した。さらに、先進地視察等を繰り返しながら将来の活性化対策についても議論した。本協議会は19年度に4回、20年度には3回、21年度には3回開催された。いま、本協議会での議論の風景を写真1に示す。



写真1 協議会での議論の風景

##### (2) 志和活性化協議会での基本方針と主要プロジェクト

基本方針として志和地区は商業機能が分散しており、住民が施設を利用しにくい現状にある。よって、これらの分散している施設の集約・集積化による利便性の向上を図る必要がある。

ここではワークショップで活性化・将来計画について議論された主な5つのプロジェクトについて示す。

###### ① 住宅促進プロジェクト

都市計画提案制度を用いて開発可能な4箇所の小中学校周辺を中心に住宅促進を行ない定住あるいは交流人口を増加させようとする計画である。志和地区内にある3つの小学校周辺部の空いた平地を利用して切望されている住宅用地の開発を行い、定住者の増加を促す。さらに「里親制度の導入」や都心部等の人に自然豊かな土地や広大な農地を貸し、滞在してもらった「滞在型の活動の提供」等の交流人口の増加につながる計画も検討する。

## ② 観光拠点づくりプロジェクト

本地区は「ホテルまつり」が行われるほど緑豊かな清流がある。そこでホテルの里として、また、萱づくりの家の集中した田園風景が維持された、美しい心の郷として都市部からの訪問者を誘導する計画である。その他、ホテルをモチーフにした特産物やホテル館等の設置、地区の特産物の販売等を考える

## ③ 園芸を活用したプロジェクト

志和西地区にある園芸センターを活用して、特産品の加工工場や花の市場などを設置し、各種イベントを実施する。その際に高齢者を雇用・活用した高齢者支援も目指す。

## ④ スポーツ施設開発プロジェクト

本地区には3つの本格的なゴルフコースを有することから、志和西地区の小野池と志和東地区の並滝寺池に挟まれたエリアを中心に自然環境と広大な空間を活用して運動公園や野球場などのスポーツ・レジャー・キャンプ施設等の建設を検討する。

## ⑤ 地区拠点プロジェクト

現在、志和堀地区から志和 IC がある志和西地区へと中心部が移動している。そこで、車の流出・流入台数の最も多い志和 IC 周辺に志和地区の拠点としての「地区拠点」を検討する。本拠点はバスターミナル機能を中心にバス交通施設を整備し、広い駐車場を設けて志和地区における移動性の向上を図る。また買い物・飲食施設の他に、診療所・図書館・市役所など多くの施設を取り込み集約化・集積化を図り、各施設が連携をとって住民サービスの向上を目指す。

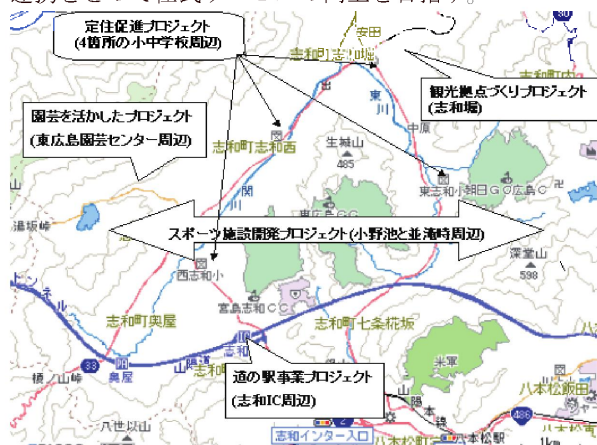


図 18 5つのプロジェクト

## (3) モデルプロジェクト(地区拠点計画)

志和活性化協議会で前述の5つのプロジェクトについて、優先順位を考慮し、話し合いを続けた結果「地

区拠点プロジェクト」が最も効果があり、志和住民にとって、最も必要な施設であると結論づけられた。主な計画内容は志和地区住民と志和 IC 利用者をターゲットに志和ブランドの開発(朝・夕摘み野菜、特産品、自然、健康、ホテルなど)や分散している商業機能を集約化して住環境の向上を図る。また、パーク&ライド方式による高速バスや志和循環バス等の利用のためのバスターミナル拠点により利便性の向上を図る。さらに、地区拠点に訪れる地区の人々との交流を図り、情報・環境の発信拠点にし、情報化による地区住民へのワンストップサービス機能を有する施設として考え、志和 IC 周辺に配置することが最も効果的であるという結果であった。

## (4) 地区拠点プロジェクトに関するアンケート結果

ここでは「地区拠点」の計画について住民の人々の評価結果を地区別に図 19～図 24 に示す。「地区拠点」の計画についての賛否については、全体的にみると「賛成」が 65%、「反対」が 9%と賛成とする回答が圧倒的に多く、「どちらでもない」という中間的な回答が 28%となっている。地区別にみると賛成とする回答が高い順に志和内地区 (96%)、志和奥屋地区 (75%) で、両地区とも反対とする回答がない。地区拠点の計画場所を志和 IC 周辺部にすることは「大変良いと思う+良いと思う」と答えた割合は 59%と過半数を超えている。逆に、「良くないと思う」と答えた人の割合は 25%と低い割合を示している。地区別では志和内地区 (81%)、志和七条柵坂地区 (77%)、志和奥屋地区 (75%)、志和冠地区 (68%) と 6 割以上が良いと答えている。

地区拠点が建設された場合の利用希望についてみる。全体的には「非常に思う+思う」と答えた人が 66%と利用したいと思っている人が 6 割を超えている。

この地区拠点を利用したいと答えた人の利用目的については「休憩や食事や買い物などのお客様として」と答えた割合が最も高く 82%を占めている。ついで、「イベントなどを開催したい」が 12%、「地元品を出店したい」4%となっている。

地区拠点に必要な施設を複数回答で聞いたところ、第1位で最も多かったのは「バスターミナル」25%、「地元品の特産市場」19%、「飲食・買い物施設」15%の3つの施設が高い割合を示している。ついで「銀行」8%、「温泉施設」7%、「スポーツ施設」5%、「図書館」3%の順に割合が高くなっている。つぎに、第3位までに



大きいことがうかがわれる。年齢別にみても全年齢層が平均的に高い評価となっている。「人と人との交流を深める」と思うと答えた割合は全体的に54%と過半数を超えている。逆に、「思わない」と答えた割合は13%と低く、中間的な回答「わからない」が32%とやや高くなっている。地区別に見ると志和奥屋地区で63%と最も高くなっている。「情報発信拠点になる」と思っている人は全体で58%と過半数を上回っている。逆に、「思わない」と答えた人はわずか14%と大差がついている。地区別では志和内地区64%、志和冠地区63%、志和別府地区64%が高い。地区拠点の建設により「訪問者が増える」と答えた割合は全体的には65%と高くなっており、地区別では志和奥屋地区で76%と最も高くなっており、ついで、志和冠地区73%、志和内地区73%が高い。「交通の利便が改善される」と期待している割合は全体で33%であり、逆の「思わない」と他の項目ほど高い評価となっていない。地区別では志和冠地区49%が最も期待しており、ついで、志和奥屋地区で37%、志和東地区で36%となっているが比較的低い。「地場産業の活性化になる」と思っている人は全体で58%と過半数を超えており、「思わない」と答えた人の割合は14%とその差は44%ほど見られ、期待の大きいことがうかがわれる。地区別では志和別府地区が64%、志和内地区で64%、志和冠地区で63%と3地区が6割を上回っており、地場産業の活性化に期待が大きい。「地区の環境の悪化につながる」と「思う」と答えた人は全体で26%、逆に「思わない」が32%と「思わない」と答えた人の割合がやや高くなっている。地区別では志和冠地区で「思う」と答えた人の割合が41%とやや高い。

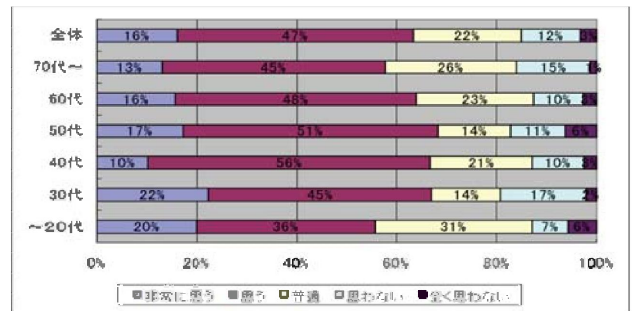


図 26 年齢別、活性化につながる

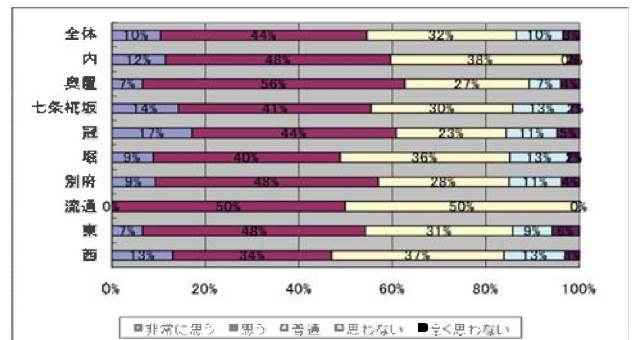


図 27 地区別、交流が深くなる

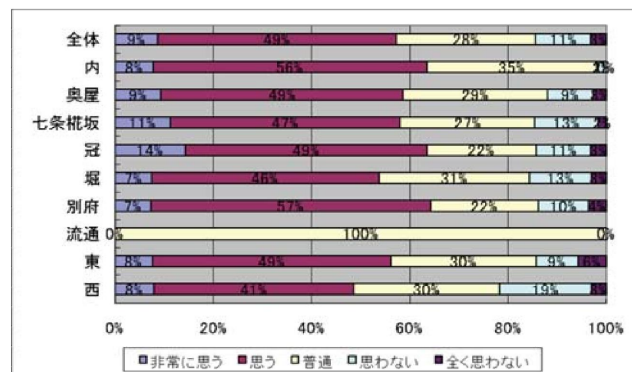


図 28 地区別、情報の発信拠点になる

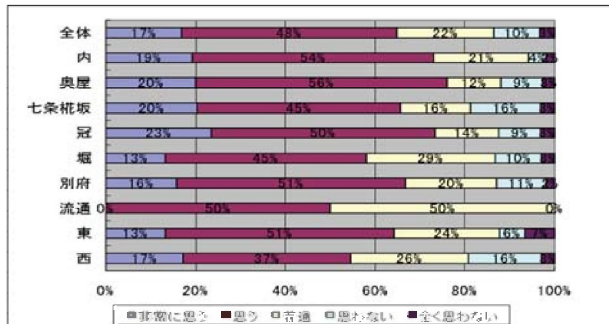


図 25 地区別、活性化につながる

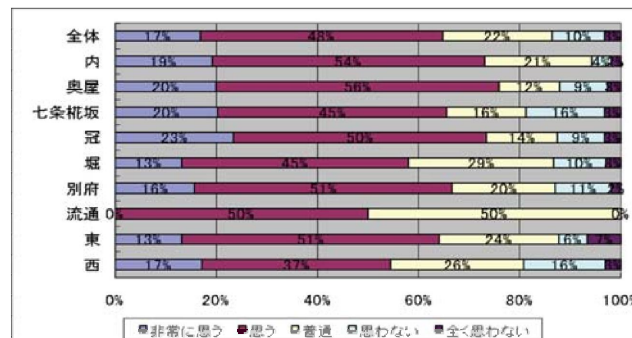


図 29 地区別、訪れる人が増える



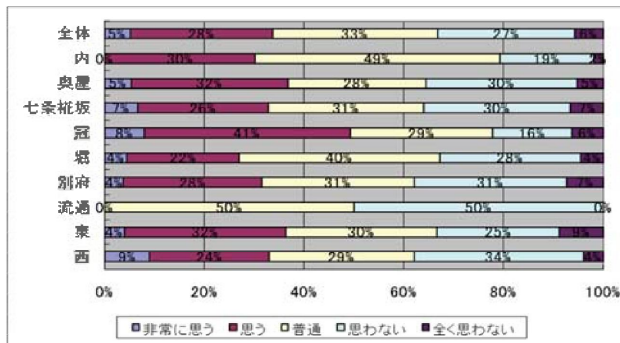


図 30 地区別、交通の便が良くなる

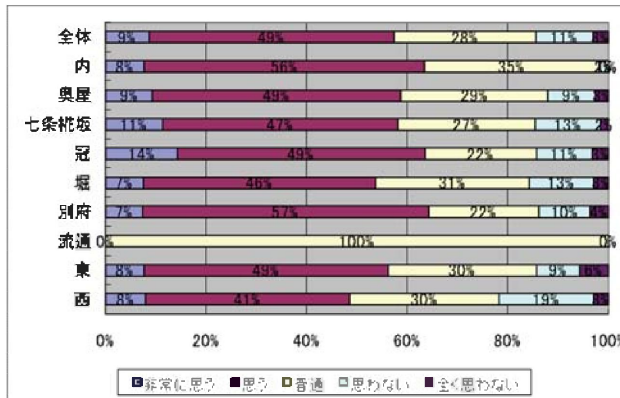


図 31 地区別、地場産業活性化につながる

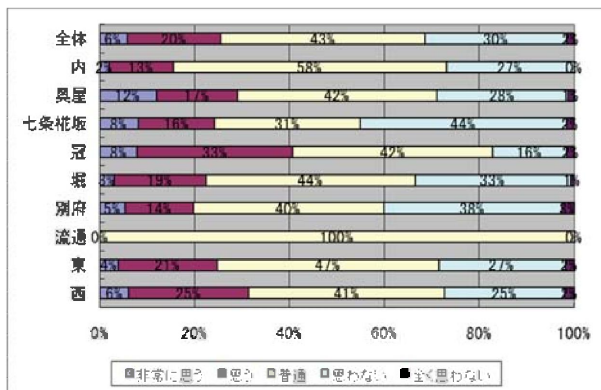


図 32 地区別、環境が悪くなる

5 地区拠点開発に関する基本計画

ここでは、「地区拠点」を建設するのに重要と考えられる機能について述べる。この基本的な考え方は前章までに述べた住民アンケート結果を中心に計画する。また、類似した施設である「NPO きらめき広場」「舞ロード IC 千代田」を参考に検討する。

(1) 志和 IC と交じる県道 83 号線の交通量調査と結果

志和 IC と交じる県道 83 号線(主要地方道志和インター線)の交通量を調査した。調査日は平成 20 年 12 月 3 日(水曜日)、12 月 7 日(日曜日)であり、調査時間は 5:00~8:00 18:00~21 の 6 時間のうち各 15 分間の台数である。調査地点は県道 83 号線沿いに①~④の 4 測定点(図 33)において、各測定点を通する自動車交通量を調査した。観測点の様子を写真 2 に示す。



図 33 交通量調査の測定点

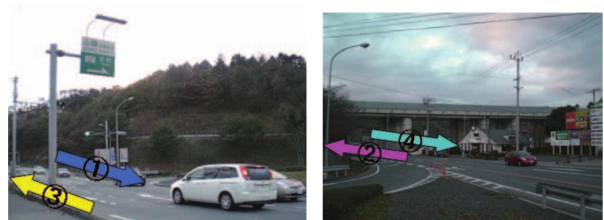


写真 2 観測点

平日の交通量は志和方面と比較し国道 2 号線方面へ進行する車量が多いと思われたが、朝の時間帯では観測点②(志和方面)を通過する車両は国道 2 号方面へ進行する交通量と比べ同程度であった。観測点④(志和方面)を通過する交通量はやや少なく、夕方になると比較的交通量が増加した。休日の交通量は平日に比べ、朝に各観測点において減少した。朝の時間帯では観測点②(志和方面)を通過する交通量も比較的多くなっていたが、夕方の時間帯で観測点②、④も交通量がやや少なくなる傾向にあった。

測定点②が予想よりも他の観測点に比べ交通量が多くみられ、志和 IC や国道 2 号線から志和各地区に流入する車両が多いという結果である。観測点④について、他の観測点に比べ交通量が少なく、志和地区の「地

区拠点」が建設されれば志和地区に住む人々にとってかなりの利便性向上が期待される。国道2号線方面から志和 IC へ流れる車にとっても「地区拠点」の利用が大いに期待される。

## (2) 地区拠点プロジェクトの基本的な考え方

ここでは「舞ロード千代田」を参考に基本計画を提案する。利用車数について「舞ロード IC 千代田」を参考に考えると、

千代田 IC 流入・流出台数=約 3500 台(2008 年 12 月の 1 日平均)

舞ロード IC 千代田の駐車台数=約 133 台(大型・普通・障害者用)

1 日の駐車利用数 =約 100 台程度(駐車率: 約 75%)となる。

志和 IC における流入・流出台数はおよそ 19433 台(2007 年 12 月の 1 日平均)なので、千代田町に比べると約 5.55 倍であることから「舞ロード IC 千代田」よりもかなり規模の大きいものが必要であると思われる。利用客数・売り上げについて(「舞ロード IC 千代田」参考)は年々増加傾向にあり、利用客の 5 人に 1 人は利用しているようである。

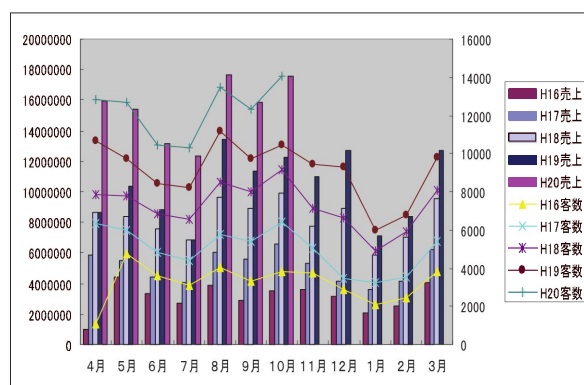


図 34 「舞ロード IC 千代田」の月別売り上げ・客数

計画する敷地面積を「舞ロード IC 千代田」を例に見ると、

休憩施設、管理施設、バスターミナル等の面積=13170 m<sup>2</sup>  
イベント広場の面積 =13198 m<sup>2</sup>  
となる。

表 2 「舞ロード IC 千代田」の各施設の予測面積

	施設名	面積(約)	面積の割合
道の駅の機能	バスターミナル	3000 m <sup>2</sup>	21.9%
	駐車場	9450 m <sup>2</sup>	69.0%
	トイレ	180 m <sup>2</sup>	1.3%
	管理棟	330 m <sup>2</sup>	2.4%
	多目的広場	210 m <sup>2</sup>	7.0%
イベント広場	イベント広場(自然スペース)	13198 m <sup>2</sup>	—

つぎに、いままでの調査結果を総合的にみたとおおよその配置計画について示す。4)、5)

### ○駐車スペース(茶色)

このような地区拠点に最も必要な駐車スペースであり、地域の人々の駐車利用、パーク&ライドでの高速バス等利用、地区外からの訪問者のために必要となり規模的にも比較的広いスペースが必要となる。また屋外トイレや屋内トイレなども配備し、夜間でも治安に配慮した利用も考慮する必要がある。

### ○バスターミナル機能(青色)

現在の高速バスターミナルをもっと利用しやすくするためにインターチェンジ近くに配置し、整備する必要がある。将来デマンドバス等の運行が可能になった場合にも活用できる広さも確保すべきである。また、デマンドバスと高速バスの乗り換えも容易にできるような配置も考慮する必要がある。

### ○地区サービスの拠点(赤色)

本調査でもあったように地区住民の多くが希望している地元品の特産市場、飲食施設、銀行、温泉施設、医療・診療施設や福祉施設等複合的に含んだ施設をメイン施設として配置し、飲食施設では志和地区で取れた野菜などの食材を使う。そこで、本施設においてほとんどの事柄が完結できるような「ワンストップサービス」を実現させることが好ましい。

### ○休憩・談話スペース(肌色)

休憩施設や集会所などを通して、住民と訪問者との交流の推進スペースとし、地区の高齢者施設や健康施設、温泉施設などリラクゼーション施設も検討する。

### ○志和地区のアピール施設(水色)

地元の特産市場では「安心・安全」な野菜や産物を出荷し、志和地区の自然の良さの発信を目指す。また、背後には地区の体験施設では自然を活かした体験や実体験のできる自然食品加工場やそば打ち・うどん打ち体験のできる学習の場を配置する。さらに、観光・地域情報案内では志和の歴史や特徴などを伝え、里親制

度や定住情報、ゴルフ場情報やイベント情報などを提供する。

#### ○自然を活かしたスペース(緑色)

志和地区の良さである自然に親んでもらうキャンプ施設やスポーツ施設などを計画し、地区内外の方々に遊んだり運動したり出来るスペースを提供し、健康の推進を図る。

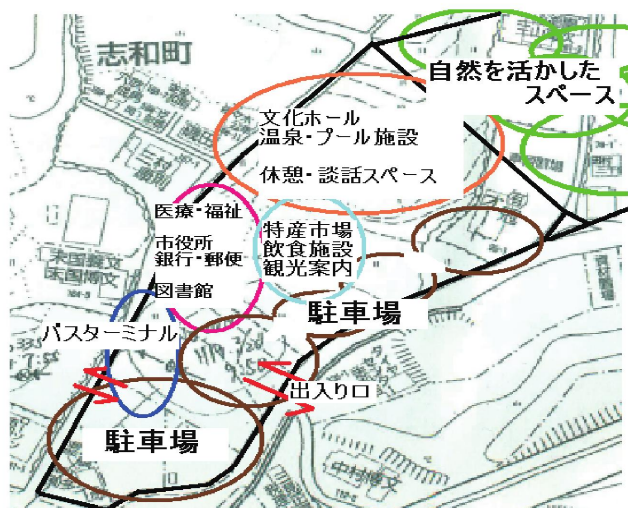


図 35 施設計画イメージ

## 6 まとめ

志和地区住民アンケート結果より「医療機関の充実」「道路・交通の整備」「飲食・買い物施設の充実」「産業の活性化」が志和地区の改善点として希望が多いことが分かった。そのためにも地区拠点を計画するにあたって買い物施設や飲食施設を充実させることが重要であり、また医療機関についても同様である。

「産業の活性化」については地区拠点に地元の特産市場を設け、志和地区の自然を生かした農作物等の販売によって活性化を図ることが出来るようにする。そこで若い年齢層からの希望が高かった「志和ブランドづくり」が課題になってくる。

「道路・交通の整備」についてはまず、朝・夕のラッシュ時の渋滞が上げられる。それは志和地区の公共交通機関が不十分である背景からほとんどの人が自動車による移動が主体になっていることが要因であると考えられる。そこで地区拠点にバスターミナル機能を導入して公共交通機関での移動が効率よく行われることが必要である。

「志和地区の住環境が良い」と回答した人の多くは「自然環境を守る」と答えている。このように自然や

健康といったものは志和地区の良さでもあるので地区拠点を計画する上でも自然環境を破壊しないように、また景観計画等においても自然の良さを十分に取り入れた計画を考える必要がある。

その他にも計画する上で、住民の参加や協力が必要不可欠である。施設を利用したいと回答した人については過半数を超える希望があった。利用したい施設や利用したくなるようなサービスを充実させることで計画に参加する人が増えると思われる。

そこで、「舞ロード IC 千代田」を参考に、高速道路のインターチェンジとの連携を取るような計画とする。まず高速道路の特性を活かし、高速バスで広島市や西条地区を中心に広域交通網を形成させる。またそれと志和地区を循環するバスとを連携させるように路線を組む工夫が必要であろう。その際には、千代田でも取り入れている「デマンドバス」を検討し、実現を目指す。

「地元の特産市場」については志和地区の良さを発信する場でもあり、住民の意欲の向上にもなると思われ、それらによって志和地区の活性化にもつながると考える。販売するものとしては志和地区で出荷されたものや作られたものに限定し「安心・安全」を売りものに生産者の顔が見られるような販売施設とする。それによって地元の人々や訪問者との交流も増えると考えられる。

最後に、本論文を作成するに当たりアンケート調査および集計に協力頂いた東広島商工会議所の皆様、私の研究室(都市工学研究室)の4年生諸君、ならびに、協力していただいた志和地区の方々に紙面をお借りして感謝の意を表します。

#### <参考文献>

- 1) 東広島商工会議所、志和地区活性化のための一計画—バスターミナル機能を有した地区拠点開発について—、2010年3月
- 2) 日本建築学会、建築・都市計画のための調査・分析方法、1987年
- 3) 東広島市、統計でみる東広島 2008、2009年7月
- 4) 研究社、建築設計資料 53、道の駅—地区づくり機能—、1995年
- 5) 研究社、建築設計資料 20、地域産業振興のための施設、1988年